



子どものために「遊び」を「学ぶ」

「遊び」について保育士や先生と一緒に学んで学ぶ、どれみ主催の「あっとほーむ」

名張市百合が丘西にある児童発達支援センターどれみが、近郊の保育施設、幼稚園に伺い、子どもの発達について相談を受ける中で考え、始めた「あそびの研究会」。開始5年目となる今年度から、

実技と理論を隔月ごとに行い年6テーマを学ぶ「あっとほーむ」として再スタート。現在、20施設62名が登録し、毎回たくさんの先生が参加して盛り上がっています。



今年度最後のテーマは「紙あそび」。色々用意した紙からグループごとに好きな紙を選び、どんな「遊び」ができるか部屋いっぱい試してみました。

色紙や折り紙といった遊びに使う紙から、トイレトペーパーやティッシュなど生活必需品、また新聞やチラシなど情報を伝える紙まで用意しました。まずグループごとに選んだ紙とその理由をまとめました。すると色んな意見が! 「ティッシュ…一番弱い」「色画用紙…色がかわいい」「チラシ…色々な色に溢れている、紙に光沢感がある」「新聞…触り心地、触ると音がする」など。なるほど! そしてその紙を使って、好きなように遊んでみました。

新聞紙で衣装を作ってみた!



・文字が模様になって
おもしろい柄になった
・擦れる音がロボットみたい

トイレトペーパーを
巻いてみた!



・巻いていくと、
だんだん温かくなった
・薄いものでも重ねれば厚く、
強くなった

トイレトペーパーで
縄跳びをしてみた



・軽いので回すのが大変、跳ぶタイミング
が難しいので新しい遊びみたい
・当たっても痛くないから怖くない

部屋中、トイレト
ペーパーを延ばしてみる



・宇宙基地みたいになった
・歩いた跡が残り、交差したり結んで
長くしたり立体的に考えられた

半紙をちぎって、
誰が長くなるか競争してみた



・短いものが長くなった
・途中でやぶれないちぎり方の
工夫を考え、集中してちぎった

色画用紙をひたすら折ってみた



・大きなものも小さくできるし、
柔らかいものが固くなった
・大きいと軽いのに、小さく
すると重くなる気がした

身近にある紙ですが、目的を超えて使ってみると様々な発見がありました。私たち大人は視覚や用途などに左右されますが、既成概念に左右されない子ども達は、五感全てを使って何でも試し、そこで色々な発見をします。先生方が子どもの自由な発想を体験することで、大人になって埋もれていたモノが吹き返したようですね。改めて子どもの発想がステキに思えました!

取材：広報委員会

「あっとほーむ」家庭版

小さい子になったつもりで、
「箱ティッシュ」で遊んでみると…

次から次へ早くティッシュを抜き取る



吹いてみる



破ってみる



放り投げてみる



他にも、色々楽しめることがわかりました。ところで、ハイハイしだす頃の子はティッシュ遊びが大好きです。「つかみやすい」「手触りがいい」「力が要らない」「不思議な箱」など。でも気が付けば部屋はティッシュだらけ。思わず「ダメ!」と止めてしまいませんか? もし小さい子がおられれば、たまには目をつむり好きなように遊ばせてあげましょう。「ティッシュでケガをする」そんなことはないのですから!

